

ぎんれいゆ会

平成二十九年四月

校塔にいそひよ歌ふ春休み

主宰 細野恵久 福祉三期

四月待つ新調のフラスカートと

増田和子 食文一期

春光や卒寿師の舞満つ喜色

改正節夫 国際三期

山頂を伐採されし山笑ふ

藤井秀重 生環四期

春愁ひ水墨はしる遺作展

三枝邦光 美工五期

海峡の風の眩しき啄木忌

國永靖子 音文六期

葉の花道童謡口に老女来る

猿橋二三雄 福祉八期

進歩はなし卒業式のあの日から

加藤善巳 美工八期

人肌もロックも美味し花見酒

太田 實 国際十期

泣き上戸なだめる下戸の花疲

今崎良平 音文十四期

臍蜜柑夢のおかしさ思いおり

大下絹子 国際十五期

春昼や電話のベルの鳴り止まず

中村建生 国際十五期

インターホン故障と書かれ董草

藤本武子 国際十五期

孫子には嘘のつけない万愚節

山下 進 国際十五期

孕み鹿朝靄の中誕繰る

許斐國照 食文十五期

女駅長高く手を振り春おくる

水島麗子 国際十六期

朧夜の門扉を閉める魔女の爪

兼清久子 健福十七期

棚曇る内海灯す桜鯛

宮本公子 健福十七期

百歳に息災問はれ垂れ桃

沖本无辺子 国際十七期

三人の予定まちまち春曆

香春早苗 国際十七期

鉦里の赤き川底春の水

仲田慎輔 国際十七期

靄の街市電ゆらゆら春の暮

中村富美子 国際十七期

ふらふらや時間の軸を往復す

宮本眞貴子 国際十七期

水温む指遊ばせる手水鉢

江間れい子 園芸十七期

野の匂ひ鄙のにはひや蓬餅

小栗恭子 健福十八期

図書カード一行残し卒業す

潮江敏弘 健福十八期

流氷の門波を越えて接岸す

野見山剛 健福十八期

雨傘に積りて花は見ごろ過ぎ

大山吉春 国際十八期

夢の中夢追ひかけて朧月

今井義和 美工二十期

いま少し酔ふに任せん朧の夜

尾崎育久 美工二十一期

膨んで風に遊ぶや老桜

黒木早苗 食文二十一期

待ち合はす場所は三越リラの花

谷口裕 国際二十一期

一時は村賑わわす土筆摘み

宮脇暁美 食文二十一期

閉院を知らせるはがき烏雲に

武藤龍雄 国際二十一期

第二百三十六回ぎんれい句会（四月十四日開催）より

ぎんれい句会について

ぎんれい句会は、シルバークレッジ第一期生として在学中だった俳誌「ぐるっけ」主宰品川鈴子先生に俳句の手ほどきを受けた同期生が卒業後すぐ平成九年四月に立上げた句会で、その後次々に同窓の俳句愛好者を加えて今日まで月一回の句会を続けてきました。

鈴子先生には引き続きご指導を賜りましたが、平成十五年からは第三期生で「ぐるっけ」同人会長の細野恵久先輩が代って指導を引き受けておられます。